

■ 市長から市民のみなさんへ

山陽小野田市長
白井 修 文



■ 新市民病院に 「CASBEE-S」が送られました

新市民病院は、現在の市民病院の隣で順調に建設工事が進行しています。10月に診療機能に移転し、来年4月には構内の整備も終えて、いよいよ本格的に新病院がオープンする予定です。目下、タイトなスケジュールのもと、深夜も明かりがともり、近くを通ると、工事現場の熱気と緊張感が伝わってくる感じがします。

その建設中の新病院に、この度「CASBEE」という、国内建築物の性能を評価する機関から、最高の「Sランク（素晴らしい）」という建築評価認証書が届きました。“環境負荷にいかにか配慮しているか”，“ランニングコストに無駄はないか”，“利用者にとって快適か”などが設計図書等により評価された結果です。ちなみに、過去Sランクを受賞した病院は、全国でも5本の指に足りないとか…。

私は、この報告に接し直感的に、新病院の完成のため汗する関係者への、何よりの「陣中見舞い」と受け止めました。改めて職員を含む工事関係者のご苦勞に想いを致し、工事の無事完成を祈っています。

■ 小・中学校の読書活動が進んでいます

この度、厚陽小中学校が「平成26年度子どもの読書活動優秀実践校」として文部科学大臣の表彰を受けることになりました。表彰を受け

る学校数は例年、小中合わせて山口県下で2、3校ですから、平成24年度の厚狭小学校、平成25年度の赤崎小学校に次いで、本市にとっては3年連続の受賞という快挙となりました。これは、平成23年度から市内のほぼ全校（その後全校）に、県下に先駆けて「学校図書支援員（司書）」を配置した成果です。全校で学校図書館の利用が活発になっており、図書支援員も、読書指導だけでなく、図書館で行う授業に指導者として参加したり、図書館での交流の中で児童・生徒の悩みごと相談を行うなど、幅広く活躍しているそうです。

厚陽小中学校は、平成24年度から施設一体型の小中連携教育校としてスタートしましたが、小学生（児童）と中学生（生徒）は一つの学校図書館を共同で利用しています。図書館での児童・生徒間の交流も次第に活発になり、生徒による児童への読み聞かせや、並んで読書をしたり、一緒に新聞を広げるなど、ほほえましい光景も見られるそうです。



ちなみに、市内各地に「読み聞かせボランティア」のグループがあるそうですが、本市の子どもたちの読書活動の水準の高さは、このグループのみなさんの支えのおかげもありますと、教育委員会は感謝していました。関係者のみなさん、ありがとうございます。